

新潟県

平成3年

公民館月報

9月
第463号

特集 第32回関東甲信越静公民館研究集会 第42回新潟県公民館大会



公民館の歌（自由の朝）

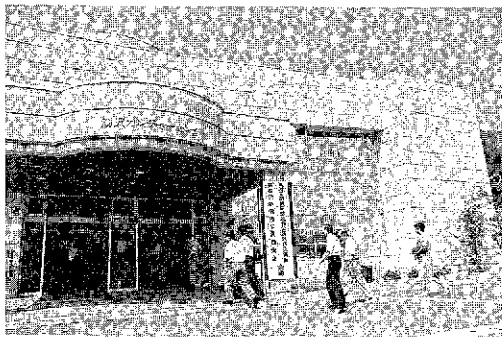
下総 皖一 作曲

- 一、平和の春に あたらしく
郷土を興す よるこびも
公民館の つどいから
とげあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう
- 二、心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしきも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう
- 三、働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしきも
公民館の つどいから
まごいにならむ ひととき
明日への力 そだてよう

第32回関プロ公民館研究集会終わる

生涯学習時代の公民館の役割をテーマに 公民館の質的充実方策を追求

十七分科会に千四百人が集う



去る九月五日(木)・六日(金)の二日間にわたり、湯沢町カールチャーセンターを主会場として、第32回関東甲信越静公民館研究集会が開催された。

この研究集会は、第42回新潟県公民館大会を共催していることもあって、県外(一都九県)から七百余人、県内から一般参加者六百人、加えて、実行委員会関係者約百人と総勢千四百人を超える大研究集会であった。

開会式に先立って、午前11時から分科会関係者による事前打合せ会が持たれたが、この時刻には一般参加者がぞくぞくと詰めかけ、開会時刻には、さしものアリーナ(大ホール)を埋めつくす盛況さであった。

正午きっかりに緞帳が上がると、副委員長星野正平氏(本会副会長)の開会宣言。続いて六日町コーラスグループ「ひまわり」のリードによる「公民館の歌」の斉唱で二日間にあたる研究集会の幕が切れて落とされた。

最初に関プロ公連会長小島茂氏(栃木県)全公連副会長郷田実氏(宮崎県)、実行委員長木下清一氏(本会会長)、大会名誉会長堀川徹夫氏(本県教育長)の主催あいさつが述べられた。

続いて、県出納長久間健二氏の祝辞、地元湯沢町町長村山隆征氏の歓迎のあいさつがあった。

このあと、副実行委員長遠藤謙二氏(本会副会長)による基調提案がなされ、これからの研究討議の方向が示され、開会式は予定どおり終了した。

続いて午後二時から始まる分科会への移動に移ったが、関係役員は送迎車の配車・運行の指図、取材活動などなど、それぞれ役割に従って一糸乱れぬ活躍ぶりであった。

午後五時分科会終了後は、一般参加者が、入浴や散策などで夕食までの時間をくつろいでいる間も、裏方では、記録係や編集係が速報原稿の執筆に追われていた。

第二日は早朝から、「速報」の配布で活動が始まった。午前九時開会、手島勇平氏(聖籠町)倉元正子氏(新潟市)から、実践をとおしての、公民館のあり方について問題提起がなされ、参加者に感銘を与えた。

続いて、副実行委員長田畑耕一氏(本会副会長)の紹介により新潟大学医学部藤田恒夫教授が登壇し「腸の不思議」と題する記念公演が行なわれた。

最後に閉会式に移り、来年度会場地となる埼玉県公連副会長へ、木下実行委員長から公民館旗の引き継ぎとあいさつがあり、南魚沼郡公連会長森山新氏の閉会のあいさつ、湯沢町公民館長片桐潔氏の閉会宣言で大会の全日程を終了した。

この研究集会の裏方として活躍した実行委員数九十名。全県からの参集で、ただ一回の事前打ち合せ会にもかかわらず本番を迎えたのだが、各係各部署の協力による整然とした活動は実に見事なものであった。本県公民館関係者の本領発揮の大イベントであった。

基調提案

質を高めるための四つの提案

関プロ公民館研究集会の要約もいうべき基調提案が、本会副会長の遠藤謙二氏によって次の四点について提案された。

(1) 事業の評価に力を入れよう。
「趣味で時間を埋めるだけなら公民館は要らない」という厳しい指摘がある。これらの評価を厳粛に受けとめ、事業の開設のし方、形態、運営の工夫などで、学び続ける意欲や能力を引き出すための援助に目を向けよう。

(2) 施設・設備の整備へのビジョンを持つ
近年の公民館施設のデラックスは喜ばしいが、それをもって終わりとしている風潮もないわけではない。身近な学習施設として住民の活動を支えるものであること。とりわけ、国際化・情報化・高齢化等の社会的要請に対応する施設として整備計画のビジョンを持つ。

(3) 学習情報提供・相談機能の整備を図る

情報化社会の進展、住民の学習需要の多様化・高度化に対応するためには、学習情報提供や学習相談機能は極めて重要になる。特に中央公民館は、生涯学習に関する情報活動の拠点としての役割を果たす必要が生じており、これらの整備に力を入れよう。

(4) 職員体制の整備と専門職としての資質の向上に努めよう。
公民館の質的充実や向上のためには職員の体制の充実と資質の向上が要諦である。これらに対応するための方策をあらゆる面から検討が急がれる。

辛口

昭和六十一年の国勢調査で家事専門にマークをつけた男性は21万人です。ちょっとびっくりする数字です。年齢は65歳、69歳がピーク。考えればお分かりになること。

率先して受講を

伊知地 鏡

企業の定年間近の人、それなりの教育を受けているようすが、我が家の場合をみても全然効果なし。定年後の男性をこう呼ぶのをご存知でしょう。

下り半です。男性が仕事仕事と家庭をかえりみない間に、女性は地域の中のボランティアや趣味で人間関係を豊かにしています。公民館はいろいろの生き方を伝授しあう講座を開き、公民館の皆さまの受講をお願いしたいものです。男女共同参画のまちづくりを推進するために。

「粗大ゴミ」から「ぬれ落葉」そして「ワシ族」。これを聞かれて立腹なさるようでは肝が小さい。自分のことくらい出来るようにしておかないと、妻から三

んな講座がいっぱいあります。少年、青年、婦人、家庭そして成人教育と多種多様に企画され、学んでいる人は学んでいる人ですが……。もう一歩踏みこんで、ま

(新潟県婦人国内研修者の会)

全体会発表



新潟女性史クラブ 倉元正子
昭和48年 1月から3月にかけて新潟市中央公民館で開設された「女性史講座」(10回)を受講したことからはじまる。
「明治から現代まで、家族との関連において女性の生活、地位はどのように変わったか」ということがこの講座の内容であったが、初めて参加した公民館であったが、まさにカルチャーショックを受けた。
講座終了後は、グループを結

全体会発表

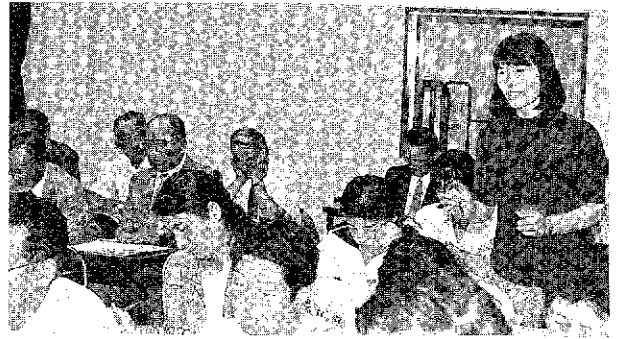


聖籠町公民館社会教育主事 手島勇平
「公民館は人間と向きあう仕事であり、そのため、地域」を遊ばせては通れない」という哲学を持って諸事業を進めている手島氏の二つの実践事例を中心とした発表であった。
その一つは、「子ども会活動」に参加した公民館と深い関わりを持った子どもたちが、青年になると公民館からは見えなくなる。その要因の一つは、「大人」の仕組んだ事業に踊らされている「点にある」と考え、唯一公民

二つ目は、子どもたちの健康と食生活に関する課題解決に向けて、母親の立場婦人の立場から、地域に残る食文化の伝承と改善に関し、「聖籠の食文化をたぐねて」の冊子にまとめる活動の事例であった。

静公民館研究集会 公民館大会 と役割一覽

湯沢カルチャーセンター



助言者	記録者	世話人
新潟県子ども会連絡協議会 事務局長 塩原俊平	加茂市公民館 次長 水信正男	白根市中央公民館 公民館長 井部和夫
柏崎市新道小学校 校長 竹田毅	三条市中央公民館 係長 鈴木正男	赤泊村公民館 公民館長 山田佐一
塩谷町公民館 公民館長 大島一助	三条市中央公民館 主事 渡辺健	燕市中央公民館 副参事 清滝茂
県教育委員会東部教育事務所 主幹兼社会主事 江森英夫	新潟市西地区公民館 事業係主査 相田要	新津市中央公民館 公民館長 湯田幸栄
新潟市教育委員会 社会教育課長 天児淑子	新潟市東地区公民館 主幹 江部忍	五泉市公民館 公民館長 和泉史
元山梨県教育庁 社会教育課長 犬飼俊和	豊栄市中央公民館 事業係長 中川辰雄	村上市中央公民館 公民館長 滝波善助
船橋市北部公民館 公民館長 佐久間章	白根市中央公民館 主事 大野賢作	大和町公民館 公民館長 森山新
下越教育事務所社会教育課 副参事 菊池三男	長岡市中央公民館 主任 佐藤芳博	長岡市中央公民館 公民館長補佐 山田勝治
新潟大学助教授 齋藤勉	上越市立公民館 係長 山川剛	上越市立公民館 公民館長 田畑耕
長岡市立東部公民館 公民館長 羽田安夫	長岡市中央公民館 主事 三浦高志	小千谷市公民館 公民館長 羽鳥昌治
大和市林間文化会館 社会教育主事 船越英一	新潟市中央公民館 主事 山田隆	十日町市公民館 副参事 大淵英雄
静岡市中央公民館 公民館長 浅井輝夫	新潟市坂井輪地区公民館 事業係主査 小川昇	糸魚川市中央公民館 公民館長 寺崎直春
下館地区公民館連絡協議会 会長 広田広一	柏崎市中央公民館 主査 鳥島一弘	出雲崎町中央公民館 公民館長 加瀬幸男
中央大学教授 奥田泰弘	新潟市中央公民館 庶務係主査 高橋實	新潟市坂井輪地区公民館 公民館長 高橋克行
横浜国立大学教授 吉川弘	見附市北谷公民館 主事 伴内美和	小国町中央公民館 公民館長 高橋清逸
上越教育大学教授 前田幹	栃尾市公民館 主査 猪俣茂敏	新井市公民館 公民館長 大野昭二
埼玉県公民館連合会副会長 専門員 金子浩	新井市公民館 主事 大塚孝雄	田上町公民館 公民館長 山口誠司



第32回関東甲信越

第42回 新潟県

分科会構成

主会場 湯沢町

分科会主題	都県名	司会者	発表者
第1分科会 青少年の学習と公民館	新潟	長岡市中央公民館 社会教育指導員 金山 茂	長岡市中央公民館 副主幹 高橋 英城
第2分科会 成人の学習と公民館	新潟	大潟町公民館 公民館長 渡辺 之夫	安田町教育委員会生涯学習課 課長補佐 井上 正
第3分科会 婦人の学習と公民館	栃木	壬生町中央公民館 公民館長 伊藤 仁一	足利市毛野町公民館 公民館長 田口 生一
第4分科会 高齢者の学習と公民館	群馬	邑楽町公民館 公民館長 栗原 利夫	邑楽町長柄公民館 公民館係長 大野 ミチ子
第5分科会 家庭教育と公民館	新潟	関川村教育委員会 社会教育係長 伊藤 泰雄	柏崎市大州地区公民館 公民館長 田邊 正直
第6分科会 文化活動と公民館	山梨	中富町原公民館長 (県公運会長) 古屋 良一	龍王町北部公民館 社会教育指導員 浅川 正次
第7分科会 地域づくりと公民館	千葉	佐倉市中央公民館 公民館長 清澤 瞳子	佐倉市中央公民館 公民館係長 内田 儀久
第8分科会 健康づくりと公民館	新潟	新井市教育委員会 社会教育課長補佐 倉石 義行	浦川原村教育委員会 指導主事 富坂 一長
第9分科会 人権学習と公民館	新潟	新発田市教育委員会 社会教育指導員 志田 賢	上越市教育委員会 社会教育指導員 子田 誠二
第10分科会 社会福祉と公民館	長野	小川村公民館 主事 藤倉 孝嘉	山ノ内町公民館内老後を 考える会会長 宮崎 あい
第11分科会 国際化社会と公民館	神奈川	相模原市立大野南公民館 公民館長 戸練 極	鎌倉市中央公民館 公民館係長 細谷 勝
第12分科会 情報化社会と公民館	静岡	清水市浜田公民館 公民館長 宮崎 敏	浜松市中部公民館 副主幹 廣野 信義
第13分科会 高齢化社会と公民館	茨城	下館市公民館 前公民館長 菊池 光雄	下館市公民館 公民館長 古谷野 幹男
第14分科会 管理運営(都市)	東京	秋川市中央公民館 公民館長 岡部 駒橋	国分寺市光公民館 公民館係長 佐藤 進
第15分科会 公民館の 管理運営(町村)	新潟	十日町市公民館 副館長 宮澤 忠男	吉田町公民館 公民館長 宮路 實
第16分科会 運営審議 会のあり方(都市)	新潟	新潟市中央公民館 運営審議委員 小池 泰子	新潟市西地区公民館 運営審議委員会 桑原 万喜子
第17分科会 運営審議 会のあり方(町村)	埼玉	鷺宮町中央公民館 公民館長 針ヶ谷 重威	人井町中央公民館 運営審議委員会 関根 宗吉

第一分科会

青少年の学習と公民館

長岡市中央公民館副主幹

高橋 英城



人生生活志向に傾きがちの少年を、野外での遊

びや、異年齢集団による活動により、自立性や社会性を培う、「少年少女野外の集い」(小学六年生・二泊三日)の実践とおしでの問題提起。

折からの学校週五日制を間近にして、「家庭・学校・地域の協力態勢の確立と連携の具体策と公民館の在り方」が主要。(青年の分野割愛)

第二分科会

成人の学習と公民館

安田町教委生涯学習課

課長補佐 井上 正



「スポー」で健康を、奉仕でやさしさを、学習で

活力を」というバランスのとれた人づくりを目指した生涯学習推進の努力について、成人男子の側面からの実践発表である。精一杯生きるためにエネルギー

ギーを消費している成人においては活動的な学習が好まれる。とりわけスポーツへの参加が意欲的。町の「壮年ソフトボール連盟」や「熟年&レディースソフトボール連盟」などのユニークな活動の発表である。

第五分科会

家庭をコミュニティのかかわりの中で考える

柏崎市大州地区公民館長

田辺 正直

地域課題を縦糸に、発達課題を横糸にして地域の社会教育を

関プロ公研集会分科会

資料に見る 県内七氏の発表要旨寸描



織りなすという持論のもとに、生涯学習の推進構想の発表であった。

「コミュニティは住民を扶養する大家族」の理念により、家庭という窓を開いて、コミュニティという風景を見、また、コミュニティから我が家を眺めることの大切さを力説している。

第八分科会

生涯スポーツ・健康づくりの実現を目指して

浦川原村教委指導主事

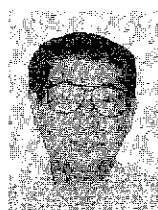
富坂 一長



「生涯健康・スポーツ推進宣言村」の実現を目指して

村ぐるみの活動を進めている実際の発表であった。①体育指導員の設置効果。②地域体育推進リーダーとの連

る。それにすると、参加者が一部に限られがちなことから



研修が根つきにくいこと。そのため、意識の輪が広がりにくいこと。その中で、「いかにしたら人々の心に届く問題提起が可能か」を課題として取り組んでいる。いま、その解きほぐしへのアプローチとして、「家庭同和教育の成立」を志向している、という実践の発表。

第十六分科会

公民館運営審議会の在り方 (都市部会)

新潟市西地区公民館運営委員

桑原 万喜子



昭和六十一年、公選審委員の手によって十項目にわたる教育目標を設定した。それによって、見通しのある、広い視野による事業を企画できるようになった。また、この答申作業をとおして、公選審のあるべき姿(役割)の多くを学んだという。その一つに、委員も時間の許す限り公民館事業に参加することで、住民のニーズを知り(調査活動)、職員の努力や苦勞を知り、より確かな公民館事業を展開できるようにすることが重要であると主張している。

第十五分科会

吉田町公民館の管理と運営

吉田町公民館長

宮地 実



一、住民サービスの向上と管理運営について

○条例と住民との間の問題点
○他の関連施設との関わり
○関係団体の在り方
をとおして、公民館の住民サー

第九分科会

上越市の社会同和教育の取り組みと課題

上越市教委社会教育指導員

子田 誠二

上越市における昭和四十八年以来的社会同和教育の実践の歩みとともに、今後の公民館の学習活動の課題等が記されている。

サークル交流

趣味を生かして地域交流 出雲崎町「盆栽趣味の会」

公民館主催の文化活動の一つ
盆栽趣味の会は、技能の向上と
親睦を目的としています。研修
日は植木鉢(ハチ)に因んで八
日と十八日に定め、前半約三十
分間は研修室でミーティングを
行い、後半約二時間は屋外(雨
天時は車庫)の実習で、ペテラ
ンを中心し相互に教えたり教え
られたりの楽しい一時を過しま
す。また、年間継続実習として
毎年課題を設け、盆栽研修日に
は、これらを持ち寄ってお互い

に批評し合うなどしています。
なお春季には盆栽展の見学旅行
をし、秋の町民文化祭には多く
の盆栽を出品して、町民の皆さ
んに観賞して頂いています。

このほか会員は、正月用に松
竹梅寄せ植を数多作って贈る
者、町営「海と夕日の広場」の
美化奉仕をする者、特別養護老
人ホームのボランティア活動等
多彩であります。このように会
員は年齢・性別を超越し、趣味
の盆栽を生涯の生き甲斐として
切磋琢磨し、楽しみながら地域
社会への奉仕を積極的に推進し
ようという気概に満ち溢れてお
ります。

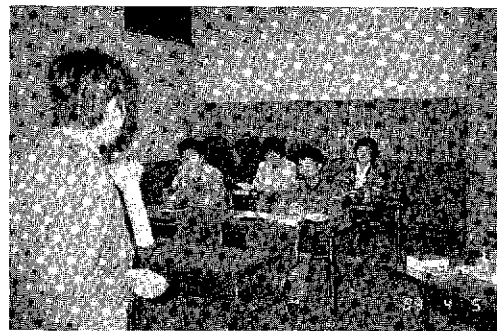
(佐藤 新次郎 記)

友好都市における

韓国語講座

「新発田市韓国講座の会」

この韓国語講座が始まって十
年目である。会員は十代から七
十代まででその巾が広い。歴史
のルーツを探りたい、企業の取
引き先がある、歌が魅力でもつ
と言葉を知りたい、相手が日本
語もできるから自分も、風俗習
慣を知りたい、など、その動機
は様々である。中にはやめる人



もいるが、毎年30名、40名の会
員が熱心に勉強している。

新潟韓国教育院長を講師とし
て毎週水曜の夜公民館を利用し
ている。最初の二年間は市民教
室として利用、八年前に社会教
育関係団体として認定され今日
に至っている。最近、十一年前
から実施されているスポーツ・
文化交流ではボランティア通訳、
言語交流があり、一昨年議政府
市との友好協定都市を結び、行
政・民間の交流が盛んになって
きた。それで市行政職員三名が
三カ月ずつ研修生として交流が
行われている。こん後、いつそ
う韓国語学習に力を入れ、日韓
友好親善のため、努力したいと
考えている。

(代表 外山吉廣 記)

紫雲寺町中央公民館・主事

大久保 浩 二氏 (27歳)

ご覧の通りこの素顔、皆さん
どっかで見たとありません
か？ 我が中央公民館の大ス
ター大久保浩二君(旧姓は中沢
です)はアジア卓球大会の混合
ダブルスの選手である。今は一
線を退き週一回の後進の指導で
活躍している。冬はスキーに燃
え、時には愛犬の散歩や釣りに



も没頭す
る。赤い短
パンが良く
似合う好青
年である。

彼は、主にスポーツ少年団を
担当し今年からは紫雲寺小学校
のミニバスケット・チーム(女
子)の監督としても敏腕を奮っ
ている。同校男子のスポーツ少
年団野球部員からは「大久保さ
んはやさしくて何でも相談に
のってくれる。」と慕われてい
る。青年団の活動の良き指導者
としても信望が厚く、日夜友と
酒と付き合い二十四時間フルに
使う男である。あつ、そうそう、
仕事に燃えるあまり、愛妻幸代
さんへのサービスを忘れないで
ネ。(紫雲寺町中央公民館
主任 小林 大作 記)

素顔拝見

湯沢町税務係

南 雲 あや子さん (38歳)

このたびの関プロ集会の進行
役としてマイクをとおして美声
を発していたのがこの方。



それなら
ばと、その
当時の公民
館に関する
忘れられな
い思い出は...?と問うと。

落ついた挙措と美しいアクセッ
トで呼びかけていたのが実に印
象的だった。が、それもその筈、
今は税務係の仕事をしてはいる
ものの、数年前には公民館に勤
務していたことがあるのだと
おっしゃる。どうりで公民館連
合会だの連絡協議会だのと紛ら
わしい言葉にも淀みなく言っ
てのけるのに合点がいった次第。

「読書好きだったので図書室
の充実に関心を入れました。その
結果図書購入予算が倍増し、子
どもを持つ母親から喜ばれたこ
とが一番嬉しく今でも印象深
く残っています。」とおっしゃ
る。さらに、「もう一度公民館で
仕事をしてみたい」と、編集子
をしびれさせるようなことも
言ってくれた。(上村 記)

— 社団法人新潟県社会教育協会創立20周年記念 —

新潟県生涯学習振興大会

- 1日 時 平成3年10月12日(土)
午前10時～午後3時5分
- 2会 場 新潟市万代市民会館
新潟市東万代町9-1
- 3日 程
(1) 開会式(10:00)
(2) パネルディスカッション(10:15~12:15)
① テーマ「生涯学習と地域づくり」
② 登壇者
新潟県生涯学習推進課長 清水 明彦
新潟市長 近 東 正子
新潟市社会教育委員 若 杉 庸昭
潟東村立東西小学校長 小 野 庸昭
司会 守門村社会教育指導員 桑 原 昭
(3) 記念講演(1:25~2:55)
議題「新潟県の生涯学習に期待する」
講師 横浜国立大学教授 吉 川 弘
(4) 閉会式(3:00)
- 4 記念祝賀パーティ
(1) 会 場 新潟シティホテル1F
新潟市東大通り1-8
(2) 時 間 3:20~5:00
(3) 会 費 5,000円
- 5 申し込み 10月5日までにはがきで①氏名②住
所③所属を記入のうえ、新潟県社会教育
協会宛申し込み。
〒951 新潟市川端町2-9
県林業会館内



県社会教育協会主催
県生涯学習振興大会開催案内

新潟市万代市民会館を会場に

来る10月12日(土) 新館竣工した新潟市万代市民会館を会場に「新潟県生涯学習振興大会」が開催される。

これは、社団法人新潟県社会教育協会が主催で、同協会の創立20周年を記念して開催するもので、新潟県及び県教育委員会ならびに当県公連その他の後援する事業である。

大会の主題は、「生涯学習推進事業」に呼応し

「生涯学習と地域づくり」を主題にして研究協議するものであり、パネル討議と記念講演が用意されている。

開催要項の概要は次表のとおりである。参加資格は特に制限がなく(協会会員のみでなく)同研究主題に関心を持つ人は誰でも参加できることになっている。

なお、研究会終了後は、会費五千円の持ち寄りで祝賀パーティもあり、振っての参加を望んでいる。

図 書 紹 介

新潟県公民館
四十年誌

二十年ぶりの記念誌
新潟県公民館四十年誌
新潟県公民館連合会刊

当県公民館連合会では、発足四十周年を記念して「新潟県公民館四十年誌」を刊行した。これまで十年ごと

の節目に記念誌を刊行してきたが、三十年誌は「集い学び結ぶ」と題する実践記録集であったので、本誌はいわば「二十年誌」(昭和47年刊行)のあとを受けて、昭和48年以降の二十年の歩みを記録したものである。

激動の二十年間における県公連の歩み、つ

ま

り本県公民館界の歩みを記録した参考史料(資料)であるとともに、県下各公民館の現況を知る資料として、公民館関係者必読必携の図書として推薦する。

B5判、二百六十頁、頒価二千五百円、送料三百十円を添えて県公連事務局へ申しこんでください。

(〒951新潟市川端町二ノ九、県公民館連合会事務局あて
電話〇二五一一二四一六〇七三)

あとがき

◆千四百人の参加による関プロ公研集会が無事終わりました。

公民館の質的充実を中心に据えた研究の中身は果たして十分だったでしょうか。

◆アンケートによれば、県外の多くの参加者が、満足して帰ったようです。県外へのサービスに没頭して県内参加者へのサービスがおろそかになるようなそしりを受けはしな

いかと案じられます。

◆ともあれ、実行委員の諸氏の協力の見事さには、ただ感謝と感激のほかはありません。

(上村 記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部120円 千共・年価1,440円】